

硫黄島の火山活動解説資料（平成 23 年 12 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

地震活動は 2011 年 2 月末頃から比較的活発な状態が続いています。

国土地理院の観測によると、2006 年 8 月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2011 年 1 月末頃から隆起速度が増加していましたが、同年 12 月下旬頃から隆起傾向はやや鈍化しています。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気・地熱等の状況（図 2）

阿蘇台東（阿蘇台陥没孔の東北東約 900m）に設置してある遠望カメラでは、島西部の阿蘇台陥没孔からの噴気は少ない状態で、噴気の高さは 10～70m で経過しました。

また、島北西部の井戸ヶ浜では、噴気は認められませんでした。

・地殻変動の状況（図 3※）

国土地理院の観測によると、2006 年 8 月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2011 年 1 月末頃から隆起速度が増加していましたが、同年 12 月下旬頃から隆起傾向はやや鈍化しています。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられます。

・地震や微動の状況

地震活動は 2011 年 2 月末頃から比較的活発な状態が続いています。

○ 過去の火山活動との比較（図 4）

硫黄島ではこれまでも 1981-1984 年（防災科学技術研究所等による水準測量と三角測量による）や 2001-2002 年に最大 1 m を超える隆起の地殻変動が観測されており、隆起が見られていた期間中の 1982 年と 2001 年には小規模な噴火が発生しています。

一方、噴火前に必ずしも地震活動が活発化するとは限らず、地震観測が開始された 1976 年以降で見ても、1982 年 11 月の阿蘇台陥没孔や 2001 年 9 月の翁浜沖で発生した噴火以外は、ほとんどの噴火で事前に地震活動の活発化が認められませんでした。

明治以降の記録に残る硫黄島の噴火はいずれも小規模な水蒸気爆発で、噴火地点は島東部の海岸付近及び井戸ヶ浜から阿蘇台陥没孔を経て千鳥ヶ原にかけての領域に集中しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 1 月分）は平成 24 年 2 月 8 日に発表する予定です。

※この記号の資料は、国土地理院及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

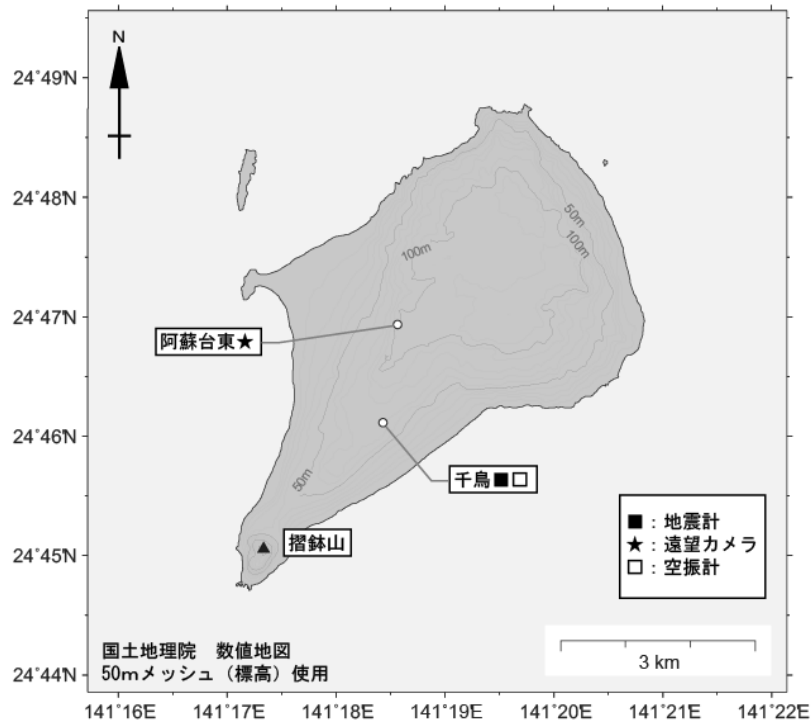


図 1 硫黄島 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）

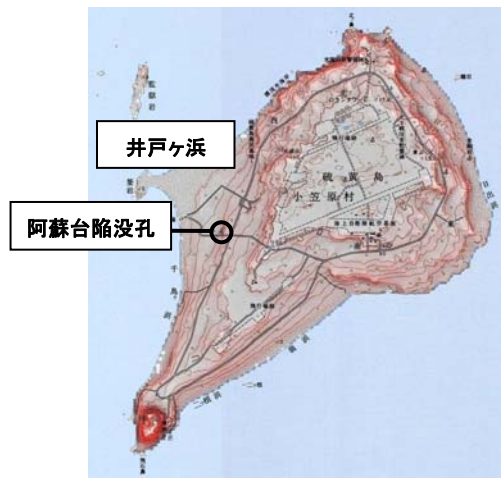


図 2 硫黄島 海岸付近の噴気の状態、阿蘇台 東遠望カメラによる
 上図：遠望観測対象地点、左下図：阿蘇台陥没孔の噴気の状態（12 月 23 日）、
 右下図：井戸ヶ浜の状況（12 月 23 日）

硫黄島周辺 GPS連続観測基線図

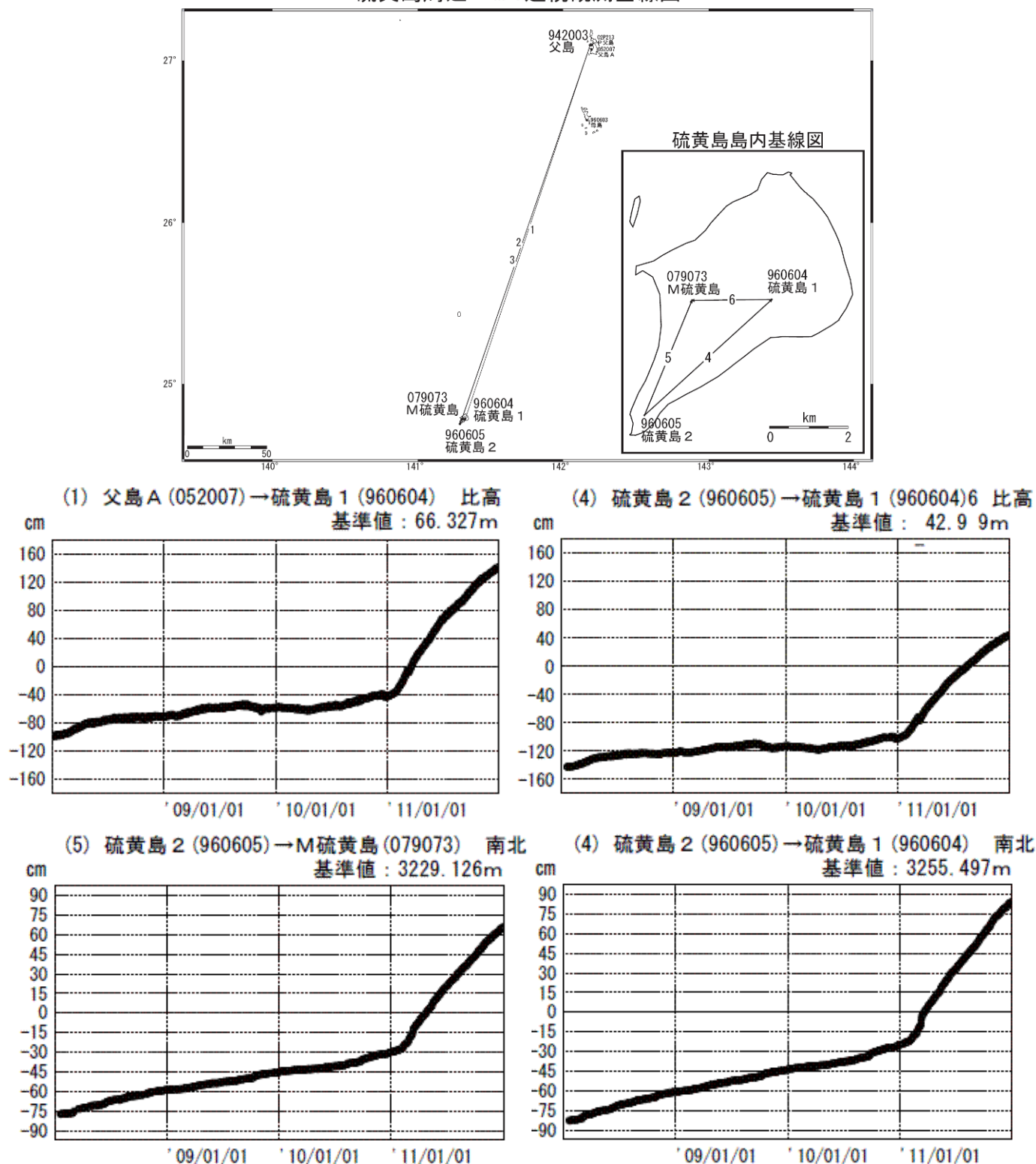


図 3※ 硫黄島 国土地理院による GPS 観測結果¹⁾ (2008 年 1 月 1 日～2012 年 1 月 1 日)

- 左上のグラフ : 父島に対する硫黄島 1 の比高の変化
- 右上のグラフ : 硫黄島 2 (島西部の摺鉢山付近) に対する硫黄島 1 (島北部の元山地域) の比高の変化
- 左下のグラフ : 硫黄島 2 に対する M硫黄島 (島西部の阿蘇台陥没口付近) の南北の変化
- 右下のグラフ : 硫黄島 2 に対する硫黄島 1 の南北の変化

1) 最終解は国際的な GPS 観測機関 (IGS) が計算した GPS 衛星の最終の軌道情報 (精密暦) で解析した結果で、最も精度の高いものです。速報解は速報的な軌道情報による解析結果で、最終解に比べ精度は若干下がりますが、早期に解を得ることができます。

